

第40回公演「久美・美容室物語」 団長の独り言

1月23日(日)

「素晴らしき仲間」

昼昼夜稽古が2週目になったけど、

「長いなあ…いやだなー」という感覚にはならない。

週に2回、13時から21時30分まで
ドブプリ芝居と向き合い、クタクタになるけれど、それはそれで実は幸せって言えば、幸せなのかもしれない。

それなのに「苦しい」とか「辛い」とか、よくこの団長の独り言に描くけれど、それはその時その時に、様々な困難にぶち当たって逃げたくなっているから、なんだか知らないが、そんな弱音を描いてしまう。だめですねえ…そんなことでは。

なんだかんだ言っても、本気で一生懸命取り組めるものがあるというのは、実は幸せなんですよ。

それを肌で感じているから、23年間も劇団活動を続けているんですよ。

稽古場に行けば、「真剣」に芝居に取り組むみんながいて、「久美・美容室物語」をいい作品にしよう！って、がむしやらになっている。同じ目標に向かって、がむしやらになっている。

そんな我々の「がむしやら」に賛同して下さる多くの協力者の方々が、昨日今日も、稽古場に駆けつけてくれる。

昨日の土曜日は、今回転換スタッフとして、参加してくれる右近さんと美帆ちゃんが18時の「通し稽古」に登場！

二人とも、前回作品「ギ・クリンキーパー」で役者として活躍してくれまして、今回は舞台スタッフとして参加してくれよとの事。

すでに稽古場に来てはくれているけれど、その時はまだ通せる状態じゃなかったの
で、今回二人とも初めて「久美・美容室物語」を「通し」で観る。

もちろん、「お客さん」としての目で観るのではなく、舞ちゃんが作成した転換表を真剣に見つめるその眼差しは、完全に舞台スタッフの目。頼もしい限り！

肝心の芝居は、まずまずの出来栄。

「昼の部」の稽古で、結構厳しいダメ出しをしながら細かく細かく稽古をしたからねえ…。

正直、昼間ガンガンやり過ぎてみんな疲れてしまったかな？と思ったけれど、いざ通してみると、集中力を切らす事なく「おお！いいじゃないですか」って芝居を見せてくれました。

課題を完全にクリアしたわけじゃないけれど、後退はしていないのでホッと胸を撫でおろし、この日の稽古は終了。

翌日曜日。

今日は、まず音声ガイドの収録がある。そう！稽古場に「ボイス・エマノン」さんがやって来たのだ。

勿論、本名ではないけれど、色々と「ボイス」さんにも事情があるので、劇団ふぁんハウス名「ボイス・エマノン」さんここでは紹介しておきます。

その「ボイス」さんとの付き合いも、かれこれ23年になる。

1999年7月に上演した劇団ふぁんハウス第1回公演の評判がすこぶる良く、急ぎよ9月に追加公演を赤坂区民センターで行うって事が決まり、それを聞きつけた朝日、読売、毎日、サンケイ等の

ほとんどの新聞が、劇団ふぁんハウスの追加公演の事を取り上げて下さり、その記事を目にした「おはよう日本」のディレクターさんから連絡が入り、私はその番組に生・出演する事になった。

そこでディレクターさんとの事前打ち合わせとして、出演の数日前、放送局に向いた際に同席されたのが、番組のメインキャスターのボイスさんだった。

テレビでは何度となく、お顔は拝見していたけれど、お会いするのは、もちろん初めて。

それなのに、波長が合ったのかな？

すっかり意気投合し、番組の打ち合わせもそこそこに、政治の話から始まり二人がこれまで歩んできた全く違った人生の軌跡等で、盛り上がったのを覚えている。

放送日の朝は、グレードのいい日本交通のハイヤーが我が家にお迎えに来てくれ

まして、生まれて初めてハイヤーに乗り、生まれて初めて、ドアサービスなんぞしてもらい、VIP気分放送局まで移動。(あの頃、ちょうど今の職種についたばかりだったので、ベテラン・プロドライバーのテクニクを盗むのに、いい機会だった。)

本番は生放送だったけど、ボイスさんと「友達感覚」になっていた私は、緊張する事もなく、ボイスさんにうま〜くりードしてもらいながら、「劇団ふぁんハウス特集」は無事終わり、帰りもハイヤーで送って頂き感激したものです。

その後、ボイスさんは、劇団ふぁんハウス公演にも足を運んで下さり、メールでのやり取りも数回ほどしてはいたが、お会いする機会もなく、数年が過ぎていった。

そんなある日、劇団ふぁんハウスで「音声ガイド」を導入しようという事が決まり、「ジャーナレーションは誰に？」となった時、当時ガイド台本を書く担当者が、「NHKのアナウンサーさんのようなしゃべりの出来る方がいいんじゃないかねえ…」と言った一言で、私はボイスさんの事を思い浮かべる。

しかし、彼はレギュラー番組を持っていたし、何よりそんなねえ…いくらなんでも音声ガイドのナレーションなんて絶対無理だろう…と思いつつも、ダメ元でお願ひしてみたら！

「平野さんの頼みだし！ボランティアでの参加なら大丈夫！」と快く引き受けて下さり、それ以来、何十年にも渡り、

劇団ふあんハウスの音声ガイドを担当してくれている。

今回もそのボイスさんを招いての収録。稽古場での収録なので、放送局の防音ばっちりスタジオと違い、雑音は入るし、隣の部屋で利用している団体のドンドンと飛び回る音は響くし、録音機器もマイクもヘッドフォンも放送局にある高価なモノと違って、一般向けの普通の代物。プロ中のプロの方にナレーションを讀んでいただく環境とは程遠い…。

それなのに、ボイスさんは「このほうが緊張感があつていいわぁー」と言つて下さり、本当に嫌な顔は全く見せず、雑音がした瞬間、瞬時にナレーションを止め、1、2秒後に音が止むと、再び素早く読み始めるといふテクニックを使いながら、100以上あるトラックであるにもかかわらず、トチリゼロ！読む速度は一定！当然ながら聞き取り易い！心地よいナレーションを行ってくれた。

達人は、どんな場所でも達人技を見せてくれるんですね。

例えはやや違うかもしれないが、「弘法筆を選ばず」という言葉が脳裏をよぎる。

収録終了後、録音係のアマティーのチェックが終わるまでの間、恒例の座談会。

コロナ禍前ならば、軽食を摘まみながら、みんなでワイワイやるのだが、(夜の収録の場合、居酒屋に移動した事も何度かあった)

ただこのご時世、そういつた事はご法度なので、寒いけれど窓全開、ドア全開、お互いが座る間隔も、「これでもかぁ!」っくらい開けて、ボイスさんと私のトークショー?が始まる。

収録に立ち会ったメンバー数名は、テレビやラジオで大活躍されている本物のアナウンサーさんがいるから緊張しているのか?いつもよりも大人しく、みんなは聞き役となつていたので、私とボイスさんの「トークショー」になつてしまったのだ。

帰り際、お互いに最高の笑顔で肘タッチをして、ボイスさんを見送る。

ボイスさん、これからお互い、元気に頑張りましょうな!ほんまにありがとうございます!ごさいました!(素敵なボイスさんの音声ガイドは、どなたでもご利用出来ますので、イヤフォン付きFMラジオをご持参のうえ、劇場へお越し下さい。)

ボイスさんがお帰りになった後、稽古場には続々とメンバー達が顔を揃える。

我々も気持ち切り替え、約1時間半程度、徹底的に抜き稽古を行い、休憩後、18時開始の「通し稽古」に向けての準備に入っていると、舞台監督の高橋さんがお越しになる。

「どーも!お久しぶりです!」
私が最も頼りにしている男の登場だ。

高橋さんとの付き合いも13年以上かな。

高橋さんが来る前は、何名もの劇団メンバーが入れ代わり立ち代わり舞台監督を行っていたのだが、段々劇団公演の規模も段々と大きくなり、そうなる、プロ中のプロの舞台スタッフさんを仕切るプロの舞台監督さんが必要となつてきて、竹内の兄貴に相談し、紹介の紹介でやってきたのが高橋さんだった。

まず高橋さんが舞台監督になつて驚いたのは、本番前にキッチンと2時間以上の休憩を取ってくれた事。

私がタイムスケジュールを組んでいた頃なんて、場当たりやケネやらにかなりの時間を取られて、昼食休憩すらままならない状態で、そのまま本番に突入つたのが、劇団ふあんハウスの当たり前だったものだから、「本番前に休憩が取れる!」って事に感動したものだ。

何故に休憩が取れるのかと言えば、それは劇場入りしてからの高橋さんの仕切りが素晴らしいからに他ならない。

今では劇場入りしてからは、全て高橋さんにお任せしているので、「大道具」兼「制作」兼「舞台監督」兼「演出」兼「役者」として、身体がいくつあつても足りないくらい動きまわっていた私も、おかげ様で舞台面に関してはほとんどノータッチでいられる。

舞台美術の三井さんは、建て込みのプロでもあるし、三井さんのお知り合いのプロ

口の方もお越しだし、「大道具被れ」の私がガチ袋を腰に提げ、ウロウロしても邪魔になるだけ…だから仕込みの時は、買い物係とか雑用係とか、あとは場を盛り上げ係に徹している。

そんな頼れる高橋さんが稽古場にやってくると、「いよいよだな!」と気持ちも引き締まる。

この日はまずは通し稽古を観ていただき、その後、舞台転換についての打ち合わせを、右近さん、舞ちゃんと共に行つたのだが、やはりさすが高橋さん!観る箇所が違うわ。

1回見ただけの「通し稽古」なのに、高橋さんからの指摘の鋭い事!鋭い事!

穏やかで、私の性格や癖をちゃんと把握して、それでいて舞台美術さん、照明さん、音響さんからの信頼も厚く、本当にいい舞台監督さんと出会えたものだとしみじみ思う。

ボランティアスタッフさんをはじめ、多くの関係スタッフの皆様との出会い。

そんなスタッフさん達に支えられているふあんハウスの強みは、スタッフさん達が劇団ふあんハウスのファンであること!これからも劇団ふあんハウスをよろしくお願い致します。